第25回
夏季デフリンピック競技大会 東京2025
大会概要

一般財団法人全日本ろうあ連盟

東京都

公益財団法人東京都スポーツ文化事業団

Contents

はじめに 1

デフリンピックについて 2

大会ビジョン 3

大会名称 6

大会エンブレム 7

準備・運営体制 9

大会期間、参加国・選手数 10

実施競技、競技会場等 11

はじめに

- 2022年9月９日、10日にオーストリア（ウィーン）で開かれたICSD総会において、一般財団法人全日本ろうあ連盟が2025年デフリンピックの開催地に立候補し、多くの支持を得て東京開催が正式決定しました。

- 日本では初めての開催であり、また1924年にパリで第1回デフリンピックが開催されてから、100周年となる歴史に残る大会になります。

- この記念すべき大会の開催を契機に、デフリンピックやデフスポーツへの理解のすそ野を広げ、障害のあるなしに関わらず共にスポーツを楽しみ、互いの違いを認め、尊重しあう共生社会づくりに貢献していきます。

デフリンピックについて

- 国際ろう者スポーツ委員会（ICSD：International Committee of Sports for the Deaf）が主催し、夏季と冬季それぞれ４年毎に開催されるデフアスリートを対象とした国際総合スポーツ競技大会
- 第1回は、1924年フランスのパリで開催
- 「デフリンピック」の名称は、2001年に国際オリンピック委員会（IOC）が承認
- 競技は一般の競技ルールに準拠するが、競技場に入った時点から、補聴器等の使用は禁止されることや、競技運営に国際手話のほか、スタートランプや旗などを利用した視覚による情報保障が特徴
- 最近の過去大会

【夏季大会】

2021　カシアス・ド・スル（ブラジル）
2017　サムスン（トルコ）
2013　ソフィア（ブルガリア）

【冬季大会】

2019　ヴァルテッリーナ（イタリア）
2015　ハンティ・マンシースク（ロシア）
2007　ソルトレイクシティ（アメリカ）※2011年大会は中止

大会ビジョン

１．デフスポーツの魅力や価値を伝え、人々や社会とつなぐ

- デフアスリートを主役に、最高のパフォーマンスを発揮できるよう大会準備を進め、その姿を通じて、本来、スポーツが持っている素晴らしさとともに、デフリンピックやデフスポーツの魅力や価値を発信し、普及・啓発に努める。

- また、あらゆる人が協働した大会運営や子どもたちの参画など、多様な視点を大切にした大会運営をめざす。

大会ビジョン

２．世界に、そして未来につながる大会へ

- 大会を通じた手話言語の理解・普及・拡大など従来からの情報保障の推進・強化に加え、デジタル技術を活用した、新しいコミュニケーションツール等の開発・社会への普及を促進する。

- このような取組を通して、国籍や障害のあるなしに関わらず、誰もが心を通わせることのできる街・東京の魅力を感じてもらい、世界との絆を深めていく。

大会ビジョン

３．“誰もが個性を活かし力を発揮できる”共生社会の実現

- 大会開催を機に、デフリンピック・ムーブメントとして、デフスポーツやろう者の文化への理解を促進し、障害のある人とない人とのコミュニケーションや心・情報・街のバリアフリーをさらに推進する。
- このムーブメントを通して、互いの違いを認め、尊重しあい、誰もが個性を活かし力を発揮できる共生社会づくりに貢献する。

大会名称

正式名称	日	第25回夏季デフリンピック競技大会　東京2025
	英	25th Summer Deaflympics Tokyo 2025
略称	日	東京2025デフリンピック
	英	TOKYO　2025　DEAFLYMPICS

大会エンブレム

＜エンブレム制作の考え方＞

○ デザイン案の制作

- 国内唯一の聴覚障害者、視覚障害者のための大学である、国立大学法人筑波技術大学の総合デザイン学科を中心とした産業技術学部の学生がエンブレムのデザイン案を複数制作する。

※ 大会エンブレムでは「25th Summer Deaflympics 」「Tokyo 2025」の文字要素を使用したデザインとすることを要件としている

○ デザインの選考・決定

- 都内の中高生（ろう学校を含む）の参加によるグループワークを実施
- グループワークでの投票によりデザインを選考し、決定する（2023年9月）

➢ めざすべき共生社会を体現する制作プロセスとする

➢ 制作過程において、手話言語通訳に加え、デジタル技術を活用し、コミュニケーションを図る

2023年９月３日、都内中高生の投票により大会エンブレムのデザイン決定

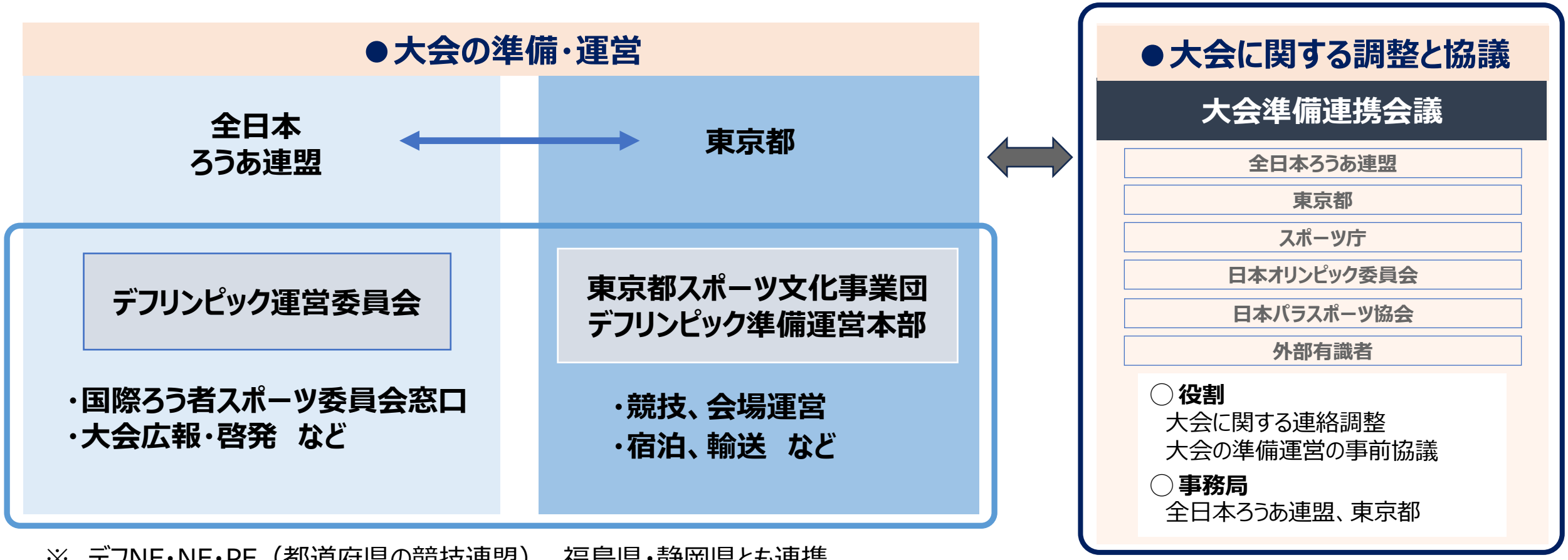
大会エンブレム

○ **制作者のコメント**

- 人々の繋がりを意味する「輪」をテーマとした。
- デザインでは、デフコミュニティの代表的なシンボルである「手」を表し、デフリンピックを通して競技と話題に触れ、互いの交流やコミュニティが「輪」のように繋がった先には、新たな未来の花が咲いていくことを表現。花は桜の花弁をモチーフとした。

準備・運営体制

- 全日本ろうあ連盟と東京都は協定を締結し、大会準備運営にかかる業務を分担
- この分担に基づく業務を遂行するため、大会開催に係る国際ろう者スポーツ委員会の窓口などを担う組織を全日本ろうあ連盟の内部に設置。競技、会場運営などの運営実務は東京都スポーツ文化事業団が担う



※　デフNF・NF・PF（都道府県の競技連盟）、福島県・静岡県とも連携

大会期間、参加国・選手数

大会期間

○ 2025年11月15日～26日（12日間）

・開会式：11月15日

・閉会式：11月26日

参加国

○ 70～80か国・地域

選手数

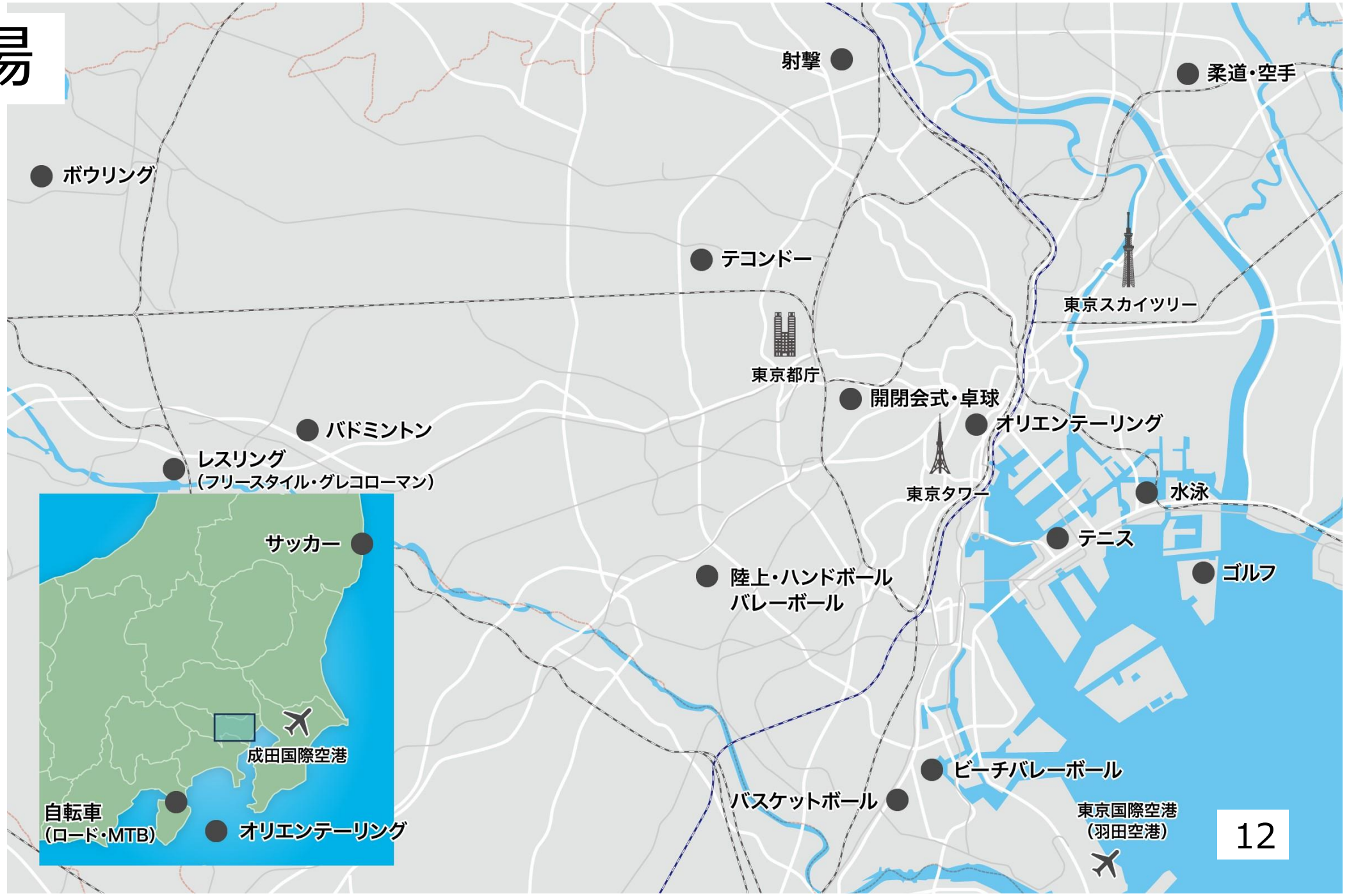
○ 約3,000人

実施競技、競技会場等

	競技名	会場
0	開閉会式	東京体育館
1	陸上	駒沢オリンピック公園総合運動場等
2	バドミントン	武蔵野の森総合スポーツプラザ
3	バスケットボール	大田区総合体育館
4	ビーチバレーボール	大森東水辺スポーツ広場
5	ボウリング	東大和グランドボウル
6	自転車（ロード）	日本サイクルスポーツセンター
7	自転車（MTB）	日本サイクルスポーツセンター
8	サッカー	Ｊヴィレッジ
9	ゴルフ	若洲ゴルフリンクス
10	ハンドボール	駒沢オリンピック公園総合運動場

	競技名	会場
11	柔道	東京武道館
12	空手	東京武道館
13	オリエンテーリング	日比谷公園 伊豆大島
14	射撃	味の素ナショナルトレーニングセンター
15	水泳	東京アクアティクスセンター
16	卓球	東京体育館
17	テコンドー	中野区立総合体育館
18	テニス	有明テニスの森
19	バレーボール	駒沢オリンピック公園総合運動場
20	レスリング （フリースタイル）	府中市立総合体育館
21	レスリング （グレコローマン）	府中市立総合体育館

競技会場


射撃
柔道・空手
ボウリング
テコンドー
東京スカイツリー
東京都庁
開閉会式・卓球
オリエンテーリング
バドミントン
レスリング
(フリースタイル・グレコローマン)
東京タワー
水泳
テニス
サッカー
陸上・ハンドボール
バレーボール
ゴルフ
成田国際空港
ビーチバレーボール
自転車
(ロード・MTB)
オリエンテーリング
バスケットボール
東京国際空港
(羽田空港)